

空冷式ヒートポンプチャラーの採用により、
大幅な省エネルギー、CO₂排出量削減を実現

社会医療法人誠光会 淡海ふれあい病院



セントラル



社会医療法人誠光会 淡海ふれあい病院

地域共生社会の実現のため、 新たな慢性期病院として誕生

社会医療法人誠光会は、2020年10月1日に「淡海ふれあい病院」を開設した。少子超高齢社会を迎え、国は来る2025年のあるべき医療供給体制と地域包括ケアシステムを構築するために地域医療構想を提唱しており、その地域医療構想の理念に基づき、地域の高齢者が安心して健やかに住み続けることができる地域共生社会の実現のため、新たな慢性期病院を立ち上げることになった。それが、淡海ふれあい病院である。

淡海とは、淡水の海と言われる琵琶湖やその周辺を指し、旧国名としても使われてきた由緒ある歴史的な地名である。一方、ふれあいは、病院理念にある信頼や安心、やさしさなどを表現し、呼びやすさや言葉の持つ響きなどを考慮して決定した。地域社会とのふれあい、人と人とのふれあい、さらには医療の原点である心のふれあいを大

切にしたいと考えている。そして、地域の皆さまから信頼され、社会から必要とされる中核病院として、地域とともに発展し、社会に貢献することを約束する。

社会医療法人としての SDGsの取り組み

社会医療法人誠光会グループは、日常の医療活動の中でSDGsに取り組み、その一環として、併設する高度急性期医療を担う淡海医療センターを含め、地域の医療を支えるレジリエントなインフラ整備を推進するとともに、持続可能かつ近代的なエネルギーの利用に取り組んでいる。



空冷ヒートポンプチャラー

以前は、空調機にガス焚吸収式冷温水機を利用していたが、高経年により冷房の効きが悪く、メンテナンス後も性能が完全に回復することがなかった。このままでは施設の運用に支障をきたす可能性があったため、空冷ヒートポンプチャラーを採用することで、経年による性能低下リスク、複数台設置によるリスク分散、省エネルギーに貢献するシステムの導入に至った。

一次エネルギー消費量削減効果

従来システム	ガス焚吸収式冷温水機 一次エネルギー消費量:5,927.3GJ
採用システム	空冷ヒートポンプチャラー 一次エネルギー消費量:2,735.1GJ

従来システム
採用システム **-54%**

(諸元) 実測結果に基づく年間シミュレーション比較
一次エネルギー換算値
※電気(全日) 9.76 MJ/kWh ※都市ガス45 MJ/Nm³
※「エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則」

社会医療法人誠光会 淡海ふれあい病院

所在地: 滋賀県草津市矢橋町1629-5
設備設計: ㈱関電エネルギーソリューション
設備施工: ㈱関電エネルギーソリューション
竣工: 2020年更新

■設備概要

空冷ヒートポンプチャラー 180kW×5台[東芝キヤリア]